

要介護度3以上の方の在宅率

1. 在宅率の分析①（全国比較）

①全国との比較（要介護度3以上の方の在宅率）

	R 1	R 4
全国	51.2%	54.2%
高知県	39.2%	43.0%

②要介護3以上の在宅率を押し下げる要因（独居世帯の割合）

	H 2 4	H 2 8	R 2
全国	10.0%	11.3%	12.1%
高知県	15.0%	16.8%	17.8%

- 高齢者のみの独居（単身）世帯は年々増加しており、一般世帯に占める割合が17.8%と全国一多い状況
- 独居世帯では家族介護力が弱く、何らかの在宅サービスがなければ在宅を維持することが難しい
- 加えて、本県は中山間地域が多くサービス量に地域偏在があり、希望に応じた在宅サービスが受けられない場合があることから、介護度が高くなると施設入所を選択する傾向がある

2. 在宅率の分析②（県内比較）

①高知市と高知市外（要介護度3以上の方の在宅率）

	R 1	R 4
高知市	44.4%	48.3%
高知市以外	36.1%	39.8%

②要介護3以上の在宅率を押し下げる要因（独居世帯の割合）

	H 2 4	H 2 8	R 2
高知市	13.1%	14.8%	15.5%
高知市以外	16.6%	18.6%	20.0%

- 県内においても同様の傾向が見られる

3. 目標設定の考え方

中山間地域の在宅率が高知市よりも低いですが、R3 県民世論調査では、在宅での療養を希望される方のニーズ（60歳以上の方）が高知市と高知市以外で同程度であることから、「全県で統一した目標」とする。

在宅率を引き上げる施策については、今後検討していく。